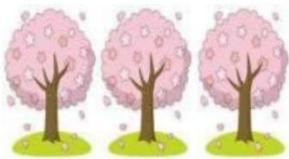


高取小だより

令和8年1月30日



三本桜

第40号

ふかく考える子　あたたかみのある子　がんばりのきく子
1月の目標：病気に負けない強い体をつくろう

冬来たりなば春遠からじ

早いもので2026年がスタートしてから1か月が過ぎました。時の流れの早さを感じます。1年で最も寒い時期だとされる大寒を過ぎ、2月の声が聞こえてくると、待ち遠しいのが暖かな春です。3日は節分、4日は立春となります。

冒頭に掲げた「冬来たりなば春遠からじ」ということわざには、「冬がやってきたならば、春は遠くあるまい」という意味のほかに、「つらい時期を乗り越えれば、やがて楽しい時期がやってくる」という意味があります。長らく続いた新型コロナ禍での生活を思い浮かべます。引き続き感染症対策をしながら教育活動のまとめへと指導を続けていきたいと思います。

さて、子どもたちは新年の目標を掲げてここまで生活してきましたが、その目標の進捗状況はどうなのでしょうか。どんな目標であれ、目標の達成は簡単なようで難しいものです。時には「寒い冬」の時期もあると思います。

しかし、努力を続けることによって「暖かな春」が来るに違いありません。大きな夢や希望をもち、その実現に向けて努力を継続することが健やかな成長になると信じています。本年度も残すところ2か月となりました。6年生にとっては、高取小学校で生活する日も残りわずかになってきました。一日一日を大切にし、たくさんの思い出をつくってほしいです。

私たち大人は・・・

しつけというと、子どもやペットなどに、社会で必要なマナー・ルール・ふるまいを身につけさせることを指します。私たち大人が子育てをするときは、カップラーメンを食べるときのようにお湯さえ注いでOK、レトルト食品を食べるときのように電子レンジでチンしてOKというわけにはいきません。多くの手間と時間がかかります。

子どもは大人の背中を見て育ちます。家庭や学校や社会を敏感に感じ取ります。耐性をもった子どもに育てなければ、そういう姿を大人が見せることです。1度や2度でなく、何度も何度も。昨日も今日も明日も…。

「しつづける」こと。これが「しつけ」などと言います。大人自身が夢をもって、それを熱く語り、それに向かって努力する姿勢をもたなければ、子どもがそうなるはずはありません。子どもにも悩みはあります。不安もあります。しかし、それを最終的に解決するのは子ども自身です。聴いてあげましょう。一緒に悩んであげましょう。好きだよと言ってあげましょう。それが大人である私たちにできることです。

デンソー・サイエンススクール（5年生）

27日（火）、5年生を対象にデンソーから2人の講師を迎えて、サイエンススクールが開かれました。「電磁石とモーター」というテーマで、子どもたちが自分の手で電磁石をつくり、モーターや発電機としての利用、ライントレースカーの制御や数種類の実験などを行って、科学の面白さを体感することができました。また、電気自動車などの事例を通じ、私たちのくらしとの関わりについて学習することができました。



ご協力をよろしくお願ひします

来年度に向けた校内体制の整備、学級編成等準備を本格的に始めたところです。お仕事の都合などで、引っ越ししが予想される場合や決まった場合は、速やかに担任までご連絡ください。よろしくお願ひします。